

様式8

河川基金助成事業

大河津分水通水100年多組織連携プロジェクト

助成番号：2020 - 6111 - 014

Love River Net
代表 樋口 勲

2020 年度

1. 事業概要

1.1. 事業の目的

日本を代表する放水路である大河津分水は建設経緯、建設効果から公共事業の原点である。しかしながら、大河津分水は人々にとって当たり前の存在となり、特に若年層に至っては存在すら知らない人々が増えている。そのような中、2022年に大河津分水は「通水100年」を迎える。多様な人々が多様な方法で通水100年を祝うべく、地域団体や自治体、教育機関、企業等の多組織の主体的な関わりを目指す。

1.2. 事業の概要

ウイルス感染症拡大防止の観点からやむを得ず中止した事業もあったが、各組織と協議し可能な範囲の中で事業を実施した。一覧表を示す。

No.	区分	内容等	実施有無	内容等	人数
1	他組織主体	ニーズ検証のために学校や地域団体とのワークショップ等を3回開催。	実施	・6/8・11/12 経営大学 MTG ・7/20 分水地域意見交換会 ・10/2 燕市まちあそび部 MTG 手持ち花火で「100周年」を表現	62名
2	他組織主体	おいらん道中で大河津分水クイズー観光協会等と連携し10万人の観桜客の前で大河津分水クイズを出題。	実施せず	-	-
3	他組織主体	大河津分水ミッションウォーキングー多組織と連携し大河津分水を巡るウォーキングを実施。	実施	・7/22～9/30 実施 ・1日限定のウォーキングイベントではなく一定期間に来訪者が自由にウォーキングできる方法に変更	123名
4	他組織主体	大河津分水サクスフェスターー多組織と連携し、生き物観察、Eボート、FMパーソナリティによるトークショーなど。	実施せず	-	-
5	他組織主体	モニュメント制作や講演会等ー多組織とのワークショップから生まれたアイデアを実現。	実施	・大河津神社の建立 ・お守りをガチャガチャで販売 ・桜の植樹 ・地元菓子店とスイーツ開発・販売	-
6	収益考慮	インフラツーリズムー河川管理者及び自治体等と連携し大河津分水周辺を巡るバスツアーを有料で開催。	実施せず	-	-
7	将来性考慮	子ども分水サミットー大河津分水周辺の小学校から大河津分水学習の成果等を発表。将来的に全国的なサミットを目指しノウハウを蓄積する。	実施	・子ども分水サミット中止 ・代替として信濃川大河津資料館ガイド冊子作成 ・学校が大河津分水紹介動画作成	99名

2. 活動内容と活動の成果

2.1. ニーズ検証のためのワークショップ

大河津分水の新しい魅力を引き出すため、また、他組織の主体的な関わりを目指すため、他組織とのワークショップを行い、大河津分水の魅力を発信する事業アイデアや意見交換を実施した。

2.1.1. 概要

地元商工会議所や大学生、高校生らと大河津分水の利活用に関するワークショップを実施し、大河津分水の魅力を発信する事業アイデアの具体化に取り組むこととした。

表：ワークショップリスト

No.	期日	対象
1	6月25日	新潟経営大学(ミッションウォーキング)
2	7月15日	新潟経営大学(神社仕上げ)
3	7月20日	分水商工会、分水ロータリークラブ、燕市観光協会、燕市
4	9月7日	燕市子ども広報
5	9月30日	新潟経営大学(MW撤去&MTG)
6	10月2日	分水高校、燕市、信濃川河川事務所
7	11月12日	新潟経営大学

2.1.2. 実施状況

各ワークショップの実施状況と大河津分水の魅力を発信するアイデアの整理結果を示す。

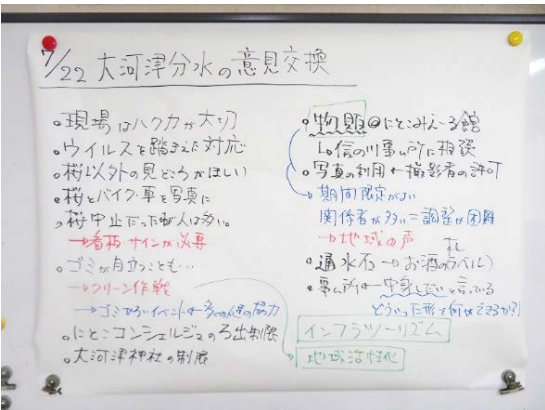
(1) 新潟経営大学



(2) 新潟経営大学



(3) 分水商工会、分水ロータリークラブ、燕市観光協会、燕市



(4) 燕市子ども広報



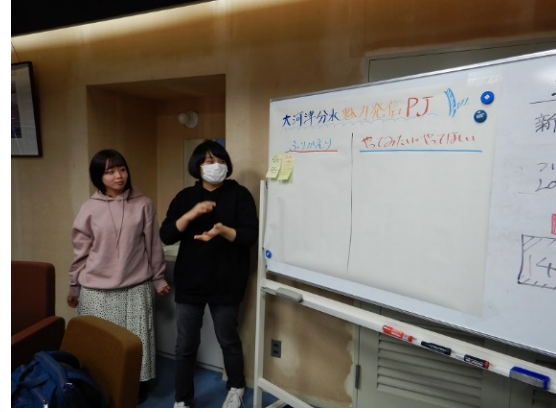
(5) 新潟経営大学



(6) 分水高校、燕市、信濃川河川事務所



(7) 分水高校、燕市、信濃川河川事務所



2.1.3. 活動の成果

(1) 新潟経営大学

アイデアとして提案された大河津分水にまつわる神社を具体化できたこと、大河津分水のお守りを販売できたこと、地元店舗を巻き込み、ウイルス感染症拡大防止にも配慮したウォーキングイベントを具現化できたことは、新しい大河津分水の魅力発信、取り組みの継続性、地域との連携の観点で大きな功績を残した。

また、これまでは、新潟経営大学内のゼミ生と連携し行ってきたが、次年度以降は大学の講義の中に大河津分水を組み込む方向が出てきており、一過性の取り組みではなく継続的な取り組みの成果である。

(2) 分水商工会議所等

大河津分水通水 100 周年ロゴマークを活用した大河津分水グッズ開発などを進めようとしたが、ウイルス感染症拡大防止対策が広がる中で商工会等との活力が低下し、思うような取り組みを見出すことができなかった。

一方で、大河津分水の地元自治体である燕市と協議する中で、燕市が主体となり大河津分水通水 100 周年に向けた商品開発を推し進める方向となった。当団体も商品開発の審査員として協力する予定となっている。

(3) 分水高校の生徒

大河津分水魅力発信のアイデアの中から、大河津分水での花火、大河津分水への桜の植樹、大河津分水通水 100 周年記念スイーツを実現することができた。桜の植樹は地元自治体である燕市の事業として引き継がれることとなり、記念スイーツも第 2 弾の開発が進む方向となっているほか、大河津分水通水 100 周年記念酒の作成も地元農業関係者や酒造会社の協力で進められることとなった。

2.2. 大河津分水ミッションウォーキング

2.2.1. 内容

大河津分水の可動堰や洗堰などをめぐる約 5km のウォーキング。健康増進の観点から大河津分水を利活用することを目的に実施した。参加者にミッションシートを配布し、決められた場所での謎解きにチャレンジしながらゴールを目指した。

当初は期日を特定したイベントとしての開催を考えていたが、ウイルス感染症拡大防止を踏まえて検討を重ね、2 ヶ月程度の一定期間において大河津分水来訪者が自由にミッションをクリアしながら大河津分水を周遊し、全てのミッションをクリアし回答用紙を地元の店舗に持ち込むことでお菓子と交換できる方法に切り替えた。

2.2.2. 概要

名称：大河津分水ミッションウォーキング

期間：令和 2 年 7 月 22 日～9 月 30 日

会場：大河津分水公園及びその周辺

参加者数：123 人

主催：Love River Net、つばめ若者会議れつつばめ、燕市

後援：国土交通省北陸地方整備局信濃川河川事務所

協力：NPO 法人信濃川大河津資料館友の会

2.2.3. 実施状況



ミッション番号を記した看板を屋内
外5箇所に設置。



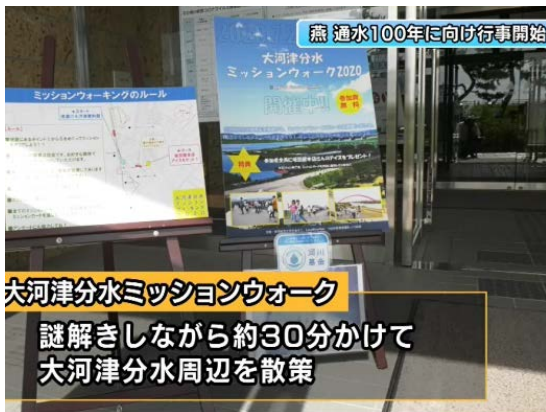
信濃川大河津資料館で受付し、ミッシ
ョンシートを受け取りスタートした。



期間中は厳しい暑さとなったが、123
名の方々から参加いただいた。



地元製菓店への協力依頼と概要につ
いて説明する学生。



ケーブルテレビで紹介された。

2.2.4. 活動の成果

- ① 地域店舗と連携し実施できたことで地域への波及効果を創出できた。
- ② 当団体がイベントを実施しなくてもミッションシートさえ配布すればウォーキングが可能となったことから、継続的な取り組みが可能となった。
- ③ 3密を避けて実施することができウイルス感染症拡大防止の中での対応が可能となった。

2.3. 大河津神社の建立

2.3.1. 内容

大河津分水は越後平野を水害から守る守護神であることから、大河津分水を神格化し神社を建立した。新潟経営大学学生とのワークショップの中から生まれたアイデアである。ご神体は100年にわたり大河津分水路の川底で洪水を流し続けた石で、採取にあたり国土交通省信濃川河川事務所、大河津分水路改修事業施工企業から協力いただいた。鳥居は紙製で地元紙器制作企業から協力いただき大学生の手作りで作成した。神社の社額も大学生の手作りである。



2.3.2. 概要

名称：大河津神社

期間：7/22～9/30：大河津分水さくら公園に設置

12/22～3/31：道の駅くがみに設置

主催：Love River Net、つばめ若者会議れつつばめ、新潟経営大学

協力：燕市

2.3.3. 実施状況



7月22日除幕式を執り行った



多くの報道陣が取材に駆けつけた



多くの方が参拝に訪れた



神棚には通水石と堰カードを奉った



12月22日道の駅国上に再建立

2.3.4. メディアでの掲出状況



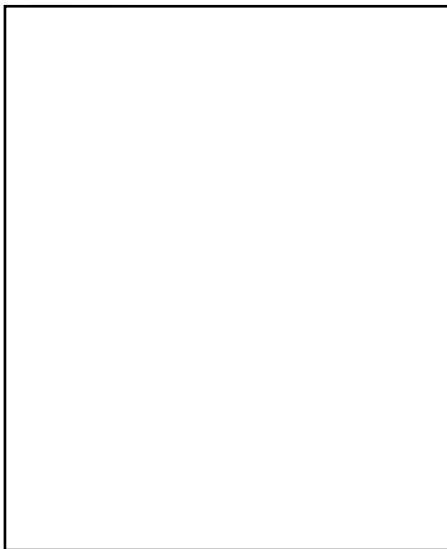
令和2年7月22日



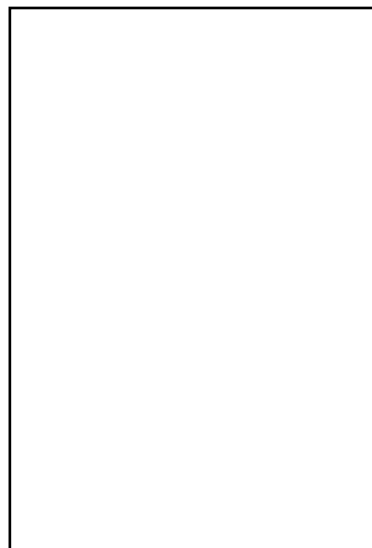
ケーブルテレビ NCT



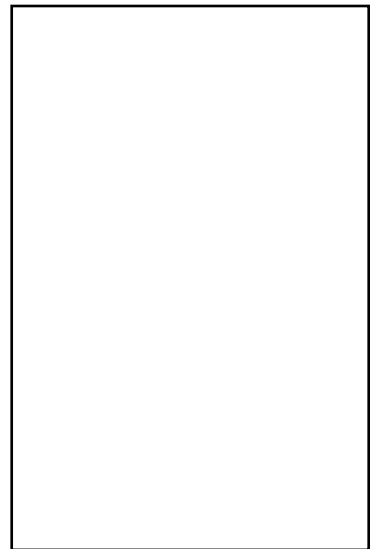
令和2年8月7日 新潟総合テレビ (フジテレビ系列)



7月23日 新潟日報



7月24日 ケンオードットコム



7月30日 読売新聞

2.3.5. 活動の成果

- ① 反響が非常に大きくテレビ、新聞などで大々的に報じられたほか、設置期間を終え撤収する際には惜しむ声が各方面からあり、大河津分水の新しい魅力として位置づけることができた。
- ② 地元企業等との新しい関わりを持つことができた。
- ③ お賽銭として 805 円が奉納されていたことから、単に大学生と一緒にモニュメントを制作したことに留まらない、越後平野を水害から守る大河津分水の意義を発信できたと捉えている。

2.4. 通水石のお守りの制作・販売

2.4.1. 内容

新潟経営大学のワークショップで学生から生まれたアイデアである。国土交通省の協力の元、大河津分水の川底にあったコンクリートを採取した。学生たちが直径 2～3 センチ程度に砕き、大河津分水 100 周年記念ロゴマークを押印した麻袋へ入れ、通水石のお守りとして制作した。通水石には 100 年前の大河津分水の通水には多くの苦労があったが「あきらめなければ願いは通じる」という意味を込めた。誰でも手軽に手にすることができるよう、ガチャガチャ販売の形式とし、1 個 100 円で購入できるようにした。



2.4.2. 概要

名称：通水石（つうすいせき）

期間：7/22～9/30：大河津分水さくら公園にて販売

12/22～3/31：道の駅くがみにて販売

12/22～3/31：信濃川大河津資料館にて試験的に販売

主催：Love River Net、つばめ若者会議れつつばめ、新潟経営大学

協力：国土交通省北陸地方整備局信濃川河川事務所、燕市

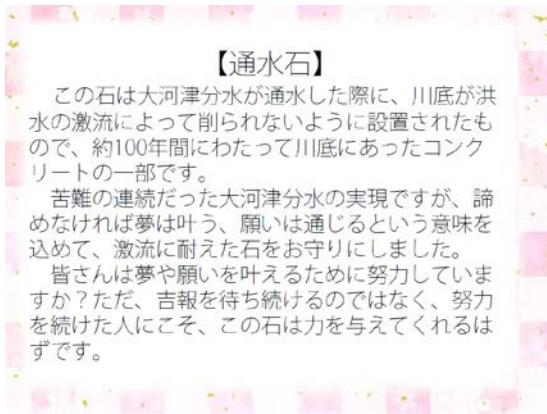
2.4.3. 実施状況



通水石をカプセルに入れ販売



信濃川大河津資料館に試験的設置



通水石の解説書



通水石の説明書を同封

2.4.4. 活動の成果

- ① 期間中の販売個数は 557 個 (55,700 円) にのぼり、関心の高さがうかがえた。
- ② 購入個数の数が多くなるほど学生たちのモチベーションアップにつながり、大河津分水の周知、地域の関心が高まった。
- ③ 大河津分水がお守りになることで越後平野への恩恵が具現化できることができた。
- ④ 反響が多く、テレビ、ラジオ、新聞で紹介され、設置協力施設よりカプセルの補充を依頼されることとなった。

2.5. 桜の植樹

2.5.1. 内容

つばめ若者会議の高校生プロジェクト『燕市役所まちあそび部』とのワークショップで「桜を増やそう」と提案された。その結果、株式会社伊藤園が実施している『わたしの街の未来の桜プロジェクト』とのコラボレーション企画として桜の植樹が実現した。伊藤園より桜の苗木5~10本程を寄贈していただき、高校生とともに植樹を行った。また、植樹式は企画・進行等も高校生が主体となった。1922年に通水した大河津分水の過去をふりかえり、未来を担う若者が未来に繋がる桜を植樹することで、大河津分水通水100周年の機運醸成を図った。



2.5.2. 概要

期日：令和2年12月12日

会場：大河津分水さくら公園 築山脇

主催：LoveRiverNet、つばめ若者会議燕市役所まちあそび部、株式会社伊藤園

2.5.3. 実施状況



植樹式



目録贈呈式



桜の植樹



植樹された桜

2.5.4. 活動の成果

- ① 主体となった高校生は卒業してしまうが、植樹したことで大河津分水に関わるきっかけとなった。
- ② 伊藤園と連携し植樹したことで、今後企業と連携するきっかけを創出した。
- ③ 燕市の桜植樹事業が行われることになり、そのキックオフ的な位置づけとなった。

2.6. スイーツ開発・販売

2.6.1. 内容

新潟県立分水高校のアイデアから始まり、地元老舗菓子店『坂田屋』に協力していただき、大河津分水通水 100 周年を記念したスイーツ開発を実現した。ワークショップに坂田氏を招き、開発に関しご指導いただいた。100 年間越後平野を守ってきた大河津分水と建設に携わった先人たちの記憶や記録、日本さくら名所 100 選の桜をイメージした。3 月 31 日時点ではまだ販売しておらず、4 月より期間限定、1 個 378 円で販売予定。



2.6.2. 概要

名称：河桜記（こうおうき）EPISODE100～ドシャっとパンナコッタ～

期間：令和 3 年 4 月より地元菓子店にて販売

主催：Love River Net、つばめ若者会議まちあそび部（分水高校）

協力：さかたや

商品内容：ベースはチョコレート味のパンナコッタ。中にはカシューナッツとアーモンド、角切りのわらび餅。表面には川をイメージしてオレンジ味の透明なゼリーと桜に見立てたイチゴ味のチョコレート。さまざまな素材の味わいと食感を楽しめるスイーツ。

2.6.3. 実施状況



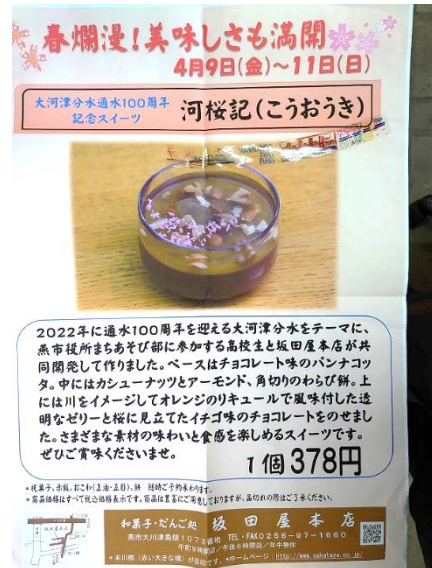
坂田氏からアドバイス



意見交換



パッケージデザイン制作



店頭に掲示予定のポスター

2.6.4. 活動の成果

- ① 菓子として実現したことで地域のお土産として大河津分水通水 100 周年の周知が期待できる。
- ② 高校生が大河津分水に関わるモチベーションが非常に向上した。
- ③ 試食会では高校生から味や見た目の意見が出るなど具体的な方向性が示された。

2.7. 子ども分水サミット

2.7.1. 目的及び経緯

大河津分水通水 100 周年事業の一環として位置づけている分水サミットは、大河津分水や信濃川を学習する小学生の学習成果の発表の場として、異なる小学校の子ども達が集うことによる相互交流や未来の川づくりに向けた意見交換の場として、令和 4（2022）年の大河津分水通水 100 周年の開催を目指しているものである。令和 2 年度には、大河津分水近隣小学校から参集いただき、プレ分水サミットの開催を考えていたが、ウイルス感染症対策を踏まえ、国土交通省や学校側とも協議し開催を断念した。

しかしながら「子ども達に発表の場を与えたい」「大河津分水を子ども達に印象付けたい」という学校の考えがあり、検討した結果、信濃川大河津資料館にて案内ガイドを小学生から実施してもらうこととした。案内ガイドを実施した学校及びウイルス感染防止対策として講じた対策を示す。

2.7.2. 概要

名称：子ども分水サミット ガイド実施学校

No.	学校名	ガイド実施日	成果物
1	燕市立分水小学校 4 年生	令和 2 年 11 月 9 日（月）	ガイド原稿
2	長岡市立大河津小学校 4 年生	令和 2 年 11 月 24 日（火）	ガイド原稿
3	燕市立島上小学校 4 年生	令和 2 年 11 月 30 日（月）	なし

No.	対応内容
1	実施日は、信濃川大河津資料館休館日とし一般来館者との接触を回避した。
2	聴講者は、保護者、学校関係者、行政関係者に限定し不特定多数の来場を制限した。
3	出席者は、学校側、信濃川河川事務所側でそれぞれ把握し、万が一、感染者が発現しても経路を確認できるようにした。

2.7.3. 実施状況と成果物

No.1 燕市立分水小学校 4年生



現地見学会の実施



ドローンで記念撮影



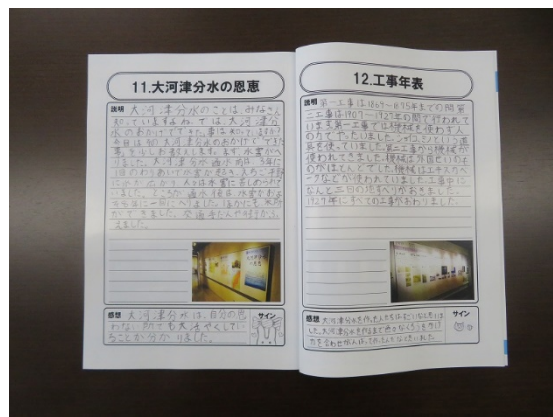
ガイド当日の様子①



ガイド当日の様子②



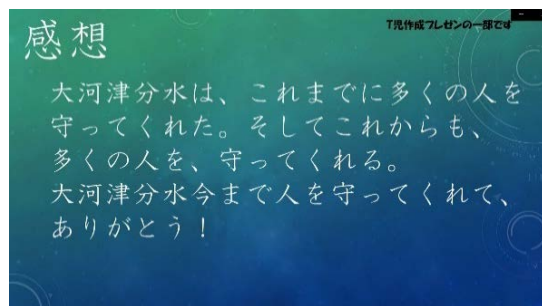
ガイドカードの冊子化



関係者に配布



ガイド後、PR 動画の作成



児童が作成した動画

No.2 長岡市立大河津小学校 4 年生



出前講座①



出前講座②



資料館見学



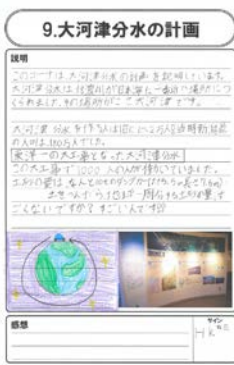
学習発表会で演劇



ガイド当日の様子①

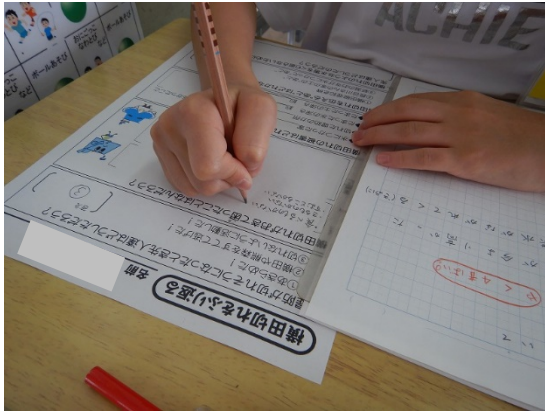


ガイド当日の様子②

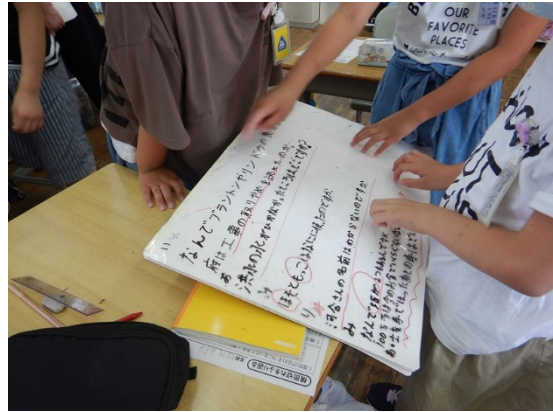


ガイドカードの冊子化

No.3 燕市島上小学4年生



出前講座①



出前講座②



ガイド当日の様子①



ガイド当日の様子②



ガイド当日の様子③



ガイド当日の様子④

2.7.4. 活動の成果

- ① 分水サミットは新型コロナウイルスのため中止したもののこれまで以上に関係を深めることができた。
- ② ガイドだけにとどまらず動画作成や演劇等、その後も発展していった。
- ③ 島上小学校には、燕市観光協会からビブス提供の申し出があり、地域とも連携することができた。
- ④ 各学校の先生から来年も実施してほしいと要望があった。
- ⑤ 保護者、先生から「(保護者・先生だけでなく)外部の方々や大河津分水の恩恵を受けている新潟市の方々に対しても同様のガイドができないか」という意見が複数聞かれた。
- ⑥ 分水サミットはなくとも、大河津分水の子供たちの心に刻み、発信できる手段が創出できた。

様式 1 1

3.川づくり団体部門

[実施箇所位置図]

助成番号		助成事業名		所属・助成事業者氏名	
2020-6111-014		大河津分水通水 100 年 多組織連携プロジェクト		Love River Net 樋口 勲	
主な実施箇所		大河津分水（新潟県燕市・長岡市）			
助成事業の主な実施箇所					
	遠景		近景		
河川基金ロゴ等表示状況写真					
	延べ参加人数	一般	284 名	スタッフ・事務局	25 名
マスコミの反響	新聞、テレビ、ラジオ等に取り上げられた。詳細は成果報告書に記載。				